

## 幼稚園兒童の貨幣と色彩に

對する知識に就て

醫學士 大 西 義 衛 述

## 一、目的

低能兒並に低格者の智力検査を爲すに當り、「貨幣並に色彩に對する知識」に方つての検査は、東西諸大家の皆等しく行ふ所である。(例へば佛のビネー、獨のチーエン、我國にては三宅、柳の諸博士、近くはドクトル三田谷氏の如き)。實際文明の人種程數多き貨幣を取扱ひ、多種にして複雑なる色彩を使用する點から見て、これに對する知識の發育如何は、直ちに其人の智能の程度と關聯するものとも思はれる。余はこの點から出發して幼稚園兒童の此二つの知識に對する發育如何を見、併せて兩者の間に如何なる關係があるかを見たい

と思ふ。

## 二、實驗

時日、自大正四年十二月二十四日至五年一月十三日

日

材料、「貨幣」には五厘、一錢、二錢、五錢、十錢、二十錢、五十錢、一圓を用ひ、「色彩」には園兒の使用せる折紙を以てした。

方法、兒童を一人宛別室に呼び入れ、「これは何んですか」と聞き、其答へを一々かきとめる。「貨幣」は五厘、一錢、二錢、五錢、十錢、二十錢、五十錢、一圓の順に、「色彩」は赤、黒、黄、青白、紫、綠、桃色、藍色、藤色、牡丹色、樺の順を以てした。試験者として始終同一の保姆これに當つた事勿論である。尙色彩に對しては方言に對して特に注意した(例へば藍色を空色、樺を蜜柑色と云ふが如き)。

人員、坂出幼稚園の兒童男五十九人、女五十八人、合せて百七十七人(三年保育のもの六人、二年二十

一人、一年九十人。

而して其成績は左の如しである。

貨幣	年別			總和	男	女
	三年	二年	一年			
五厘	一〇〇〇	一〇〇〇	〇九五〇	〇九六〇	〇九四〇	〇九八〇
壹錢	一〇〇〇	一〇〇〇	〇九四〇	〇九五〇	〇九四〇	〇九八〇
貳錢	一〇〇〇	一〇〇〇	〇七八〇	〇八四〇	〇八四〇	〇八二〇
五錢	一〇〇〇	〇九〇〇	〇四七〇	〇五九〇	〇五五〇	〇六〇〇
拾錢	〇五〇〇	〇七一〇	〇二六〇	〇三六〇	〇三七〇	〇三四〇
半錢	〇五〇〇	〇四七〇	〇一四〇	〇二三〇	〇二七〇	〇一七〇
平錢	〇一六〇	〇三八〇	〇一二〇	〇一八〇	〇一六〇	〇一八〇
壹圓	〇〇〇〇	〇〇九〇	〇〇四〇	〇〇二〇	〇〇六〇	〇〇三〇
赤	一〇〇〇	一〇〇〇	〇九七〇	〇九八〇	〇九八〇	〇九八〇
黒	〇八三〇	一〇〇〇	〇八八〇	〇九〇〇	〇八六〇	〇九五〇
黄	一〇〇〇	〇九九〇	〇九〇〇	〇九三〇	〇九三〇	〇九三〇
青	〇六六〇	〇五二〇	〇四六〇	〇五二〇	〇五六〇	〇三八〇
白	一〇〇〇	一〇〇〇	〇九五〇	〇九六〇	〇九五〇	〇九八〇
紫	〇八三〇	〇九〇〇	〇五二〇	〇六一〇	〇五七〇	〇六三〇
綠	〇五〇〇	〇〇六〇	〇二三〇	〇三一〇	〇二〇〇	〇四三〇
桃	〇八三〇	〇九九〇	〇六七〇	〇七三〇	〇八六〇	〇七三〇
藍	〇六六〇	〇〇六〇	〇三四〇	〇三三〇	〇四四〇	〇三三〇

藤 〇〇五〇 〇一九〇 〇〇一〇 〇〇六〇 〇〇四〇 〇二〇〇  
 牡丹 〇三三〇 〇三八〇 〇〇一〇 〇一六〇 〇〇四〇 〇一〇〇  
 樺 〇〇五〇 〇六六〇 〇四八〇 〇五二〇 〇四二〇 〇六〇〇  
 更に「色彩」に於て十二種中十ヶ以上、「貨幣」に於て八種の中六ヶ以上の陽性成績を得たるものを優等とし、「色彩」に於て三ヶ以下、「貨幣」に於て二ヶ以上の陽性成績を得たるものを劣等となし次の結果を得た。

貨幣

年級	性別		總數	優等兒	劣等兒
	男	女			
一年	二	二	四	二	二
二年	一〇	一	一一	一	一〇
三年	二	二	四	二	二

色彩

年級	性別		總數	優等兒	劣等兒
	男	女			
一年	三	三	六	一	五
二年	九	三	一二	一	一一
三年	四	四	八	四	四

右の中「貨幣」「色彩」共に優なるもの九人、共に劣なるもの一人にして、今兩者の總得失を平均すれば次の如し。

「貨幣」の優等児が「色彩」に對する得點 八・五

「貨幣」の劣等児が「色彩」に對する得點 四・二

「色彩」の優等児が「貨幣」に對する得點 五・四

「色彩」の劣等児が「貨幣」に對する得點 一・七

### 三、結論

「色彩」に關する知識は次の如くである。

一、園兒の最もよく知れる色は赤、(九八%)にして、白(九六%)此に次ぎ、黄(九三%)黒(九〇%)、桃色(七三%)紫(六一%)、青(五二%)、樺(五二%)、藍(三三%)、緑(三一%)、牡丹(一六%)、藤(六%)と云ふ順序である。即ち赤、青、白、黒、黄、紫、樺、桃色の八色は園兒の半數以上は知つて居る色で、藍、緑、牡丹、藤は兒童にとりて稍困難なる色の様に思はれる。

二、男女によりて成績は異なる。女の方が一體に(各色に就て)男より成績がよい。

三、其中「青」は男の方が勝り「紫」、「牡丹」、「黒」、「緑」は女の方が勝れて居る。

四、成績は保育の年級がすゝむ程良好である。

五、優等児は男よりも女が多い。一年よりは三年保育のものに多い。

六、劣等児は男女相半ばし、一年保育のものに多い。

「貨幣」に關する知識は稍々異なりて居る。

一、最もよく知れるは五厘(九六%)、次は一錢(九五%)で、二錢(八四%)、五錢(五九%)、十錢(三六%)、二十錢(二三%)、五十錢(一八%)一圓(二%)と漸次順追ふて正しき階段を爲して居る。

二、五錢以下の貨幣は園兒の半數以上(五九%)は知りて居る。

三、男女によりて成績は「色彩」の如く甚だしき相違がない。

四、年級の別も同様である。

五、優等児も男女に別なく年級によりて差がない。

六、劣等兒も同様男女、年級によりて差違がない。

而して此の二つの知識は其發育と相平行して居る。換言すれば「色彩」の知識に勝れたるものは「貨幣」にも勝れ、「貨幣」に劣りたるものは「色彩」にも劣つて居る。

#### 四、附言

以上は余が坂出幼稚園兒童に對して爲した成績である。余はこれを以て直ちには全兒童の夫れに應用せんとする程旨斷でないが。少なくとも一地方の兒童の「貨幣」並に、「色彩」に對する知識は此の如きものと云ひ得ると思ふ。特に兩者が相並行し、色彩に對する知識が三田谷氏の八歳の「テスト」(智力検査箱)に相應するが如きは、偶然の一致なりとは云へ注意に値すると思ふ、敢て先輩諸彦の叱正を俟つ所以である。

終りに此調査を爲すに當り多大の便宜を與へられたる園長宮崎熊三郎氏並に野口、喜田、松野の三

保母に對して感謝の意を表す。

(兒童研究第二十一卷第五號)

### 各園情勢

#### 彦根幼稚園

##### ○沿革

明治二十五年五月一日私立東幼稚園を大字五番町に創設し兒童の保育をなす。

明治三十年十月一日私立西幼稚園を大字下魚屋町に創設し幼兒の保育をなす。

明治四十年七月十四日共に私立を廢し町立となる、大正二年四月十二日東西幼稚園を廢し之を併合して彦根幼稚園となる。

この間一盛一衰ありと雖も微々として振はざしが四十年以來は保育研究會幼稚教育講習會等に出席して大家の指導に従ひ保母の盡瘁により日に月に隆盛の運に赴き、漸く今日の域に達するを得た